

利用案内

開館時間	9:30~16:00
休館日	第3水曜日(祝日の場合翌日)、年末年始他
入館料	無料
交通	市営バス 桜木町駅—(8)(26)(105)(106)系統「本牧市民公園前」 または「本牧車庫」下車7分 根岸駅—(54)(97)系統「本牧市民公園前」下車5分 磯子駅—(58)(99)系統「本牧」下車10分 横浜駅—(8)(125)系統「本牧市民公園前」下車5分
所在地	〒231-0822 横浜市中区本牧元町76-1
お問合せ	tel.045-622-2624 / fax.045-622-2657

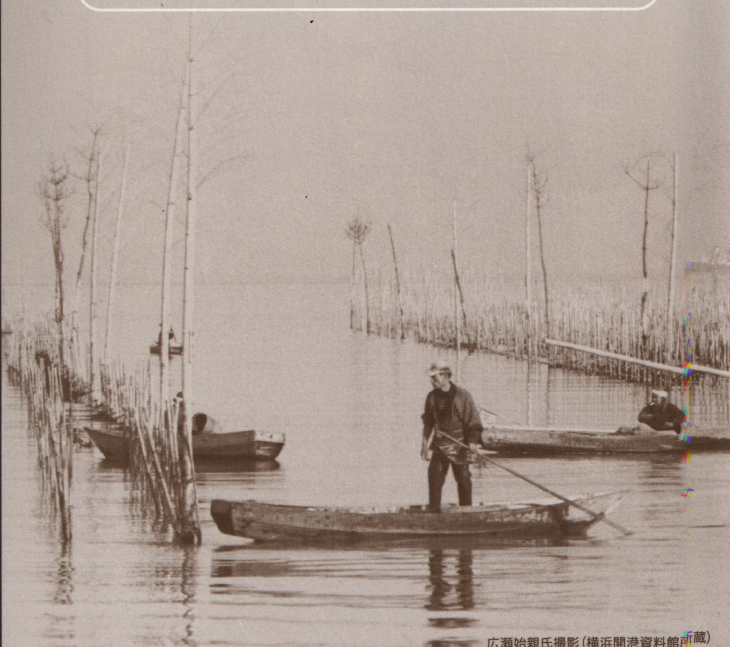
※一般駐車場はありません。福祉車両は事前にご連絡ください。



八聖殿郷土資料館は、1973年に市民に郷土の歴史を伝える資料館として開館しました。周辺一帯は本牧臨海公園として、市民の憩いの場になっています。

かつて周辺は海辺の絶景地として愛された場所でしたが、1959年からはじまる埋め立てにより、周辺の景色やくらしの様子は大きく変化しました。資料館では、この埋め立てによって失われた漁業の姿を、この地域で収集した漁労具を中心に展示しています。また、農業も時期を同じくして進んだ開発により大きく変わりましたが、市域で収集した農具や生活用具により、開発以前の生活の様子を展示しています。

自然のめぐみとともにあった先人たちの生活に思いをはせてみませんか。



広瀬始親氏撮影(横浜開港資料館所蔵)

発行：財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
 〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1
 tel.045-912-7771 / fax.045-912-7780

2008.3 20000

横浜市八聖殿 郷土資料館



漁具と農具からみる 先人の暮らし

1F 海とともにくらししていた頃

埋め立てが行われる前の横浜市内は、漁業が盛んなところでした。

海岸線はほとんどが砂浜や磯で、海上には漁をする船が行き交い、砂浜には船や網が干されていました。祭りの日には御輿が海に担ぎこまれ、遠浅の海は海苔作りや海水浴に絶好の場を提供してくれました。ここでは海を舞台に営まれていたくらしの姿を、紹介します。



イケス



干り用具



横浜市内の内陸部は、農業を中心としたくらしを営んできました。

谷戸が広がる景観のなかで、水田では米を作り、畑では麦や雑穀をはじめ、さまざまな野菜を作りました。綿の実から糸を取って布を織り、普段の着物を仕立てたり、現金収入を得るためにカイコを育てたりと、農業といってもその生業はと



綿糸づくり

多様でした。内陸部のくらしや生業のようすを、青葉区から移築された「旧松沢家住宅」や市内で使われてきたさまざまな農具を通して紹介します。



千歯扱き

2F 農村のくらし

疫災を海に流して—本牧神社のお馬流し

横浜市中区の本牧神社で行われている神事で、はじまりは1566(永禄9)年と伝えられています。茅で頭部を馬、胴体を竜形に作った6体のお馬に、すべての疫災を乗せて本牧沖に放流することで、村の人々の無病息災や大漁・豊作を祈願します。神奈川県は無形民俗文化財に指定されています。



八聖殿 〇 八聖像

八角形の建物は、法隆寺夢殿(奈良)を模して、一九三三年に元内務大臣の安達謙蔵氏が建設したものです。

中には、聖徳太子、弘法大師、親鸞、日蓮、釈迦、孔子、ソクラテス、キリストの世界の8聖人の彫像が飾られています。



左から右へ
上段:キリスト(清水多嘉示 作)銅製/ソクラテス(藤川勇造 作)青銅製/孔子(北村西望 作)青銅製 中段:釈迦(田島亀彦 作)木製/神鏡(香取秀真 作)/聖徳太子(朝倉文夫 作)白銅製 下段:弘法大師(長谷川樹蔵 作)木製/親鸞(長谷秀雄 作)銅製/日蓮(日名子実三 作)銅製

(いずれも1933年製作)

